

## 佳作賞受賞者

佳作賞

「チキンファット」

「mon」15号

キン ミカ氏

キンミカ

一九七五年京都市生まれ。西宮市在住。佛教大学文学部英米学科卒。大阪文学学校で二〇〇八年と二〇一一年の約二年間学ぶ。二〇一二年から同人誌「mon」同人。二〇二〇年個人事業主としてMika Treeを開業。

「チキンファット」

高校を中退し、通い始めた定時制高校で十七歳の香帆と貴和子は出会う。在日韓国人で帰化をした家庭に育つ香帆と

とオピオイド中毒でスナックを営む祖母のマンションに母親と三人で暮らす貴和子。二人は家庭への不満を抱えており、定時制で社会を教える佐越の家に転がり込む。先に住み着いていた貴和子が薬の大量摂取による意識不明で病院に搬入され退院すると、貴和子のリクエストで貴和子の彼氏を含む三人で中華街に出かける。そこでヘイトスピーチに遭遇する。——あいつらはただのコリアンじゃない、日本を乗っ取るうとしてる在日エイコリアンです。街宣車からかなり声が聞こえ「エイコリアン追放！」とデモ隊が叫ぶ中、貴和子の彼氏もつられて叫ぶ。デモ隊に糾弾されている「在日韓国人」の香帆は動揺し、なんとか気を紛らわす。黙り込んでいると貴和子に不審な顔をされ、香帆はつい、エイコリアンに死よ、と叫ぶ。

家出生活が続ぎ金銭的余裕のない香帆はバイトを始める。就職祝いしようとして貴和子がい出し、息子の光一を連れて旅行に出かけた佐越家のリビングでテレビを観ることに。数あるDVDから「チキンファット」を選んだ二人は登場人物のゾルタンに魅せられる。ロマで孤児のゾルタンは生き抜くために鶏を殺し油を売り歩いていたがある日、鶏を盗みに忍び込んだ農場でバイオリンを弾く農場主に遭遇する。ゾルタンは名前を変え有名なバイオリストになる。鶏を盗まれ続けた農場は廃れていき、やがてバイオリストとして成功したゾルタンは鶏を盗み歩いた町で無料コン

れるためだと貴和子は説明した。翌朝、再び佐越との件から薬の大量摂取で搬入された話に及ぶと貴和子の自虐的な態度に香帆は我慢できなくなり本音をぶつける。そこで香帆は急に力が抜け、自分はデモで非難された「エイコリアン」なのだと言及ぶ。貴和子に打ち明ける。

実家に帰る日の前日、貴和子は再び彼氏とのデートに香帆を誘う。貴和子が例の巾着をスナックに届けた後サムゲタンを食べに行く予定だったが、貴和子に母親から電話が入り自分の愛人で貴和子のバイト先のオーナーでもある「豆じい」の喫茶店に行くよう告げられる。車内に残された香帆は貴和子の彼氏にも自分がエイコリアンであることを告げ清々しい気持ちになる。暫くし貴和子は戻ってくるが、結局サムゲタンの店には間に合わなかった。また連れて行ってやると彼氏がそつと貴和子の頭を撫でる。佐越の家に着くと、最後の日だから少し歩こうと貴和子が香帆を誘う。そこで母親が「豆じい」に自分を売ろうとしていると貴和子に告げられ香帆はショックを受ける。巾着をまだ貴和子を持つていることに気づき、もう薬に手を出さないように約束させる。即答で応じる貴和子の言動が腑に落ちず、もう一度、忠告しようとするが、貴和子も今日は疲れたと言っていたのを思い出し、思いとどまる。今じゃなくてもまた今度があると信じて。

サートを開く。そこでゾルタンはバイオリンを弾くきつかけとなった農場主と偶然再会する。——私の名前はゾルタン！ チキンファットのゾルタンさ。出自を偽り続けたゾルタンはついに観衆の前で自らを曝け出す。ゾルタンの叫びに香帆と貴和子は深く共鳴する。バイトを続ける香帆だが自分がまだ未熟者であることへの正当性に気づき、給料日があったら焼き菓子を買って家に戻すことに決める。バイトが休みになった平日、佐越家の中庭に光一がいて、母親が毎日手作りする鳥の餌を荒らしていた。光一は香帆を見て慌てるがいつも通りに会話を交わし、別れ際香帆にハイチュウを渡す。その日、香帆は腹痛に襲われ一人で学校を早引きする。腹痛が治まり浴室のある貴和子の部屋を訪れる。整腸剤をもらおうと薬剤が揃う貴和子のピルケースを開けると底に巾着が隠されていて、大量の白い錠剤を見つめる。香帆の脳裏に中毒症の文字が横切る。巾着を戻すと香帆は何事もなかったように湯船に浸かる。スマホが鳴り、弟からの電話だと気付いた香帆は家族に家に帰ることを伝え電話を切る。誰もいないはずの部屋から時々耳にする謎の音が聞こえ始め、音の正体を暴こうと息を潜めて浴室から貴和子の部屋を覗く。そこで香帆は佐越と貴和子のSM紛いのプレイを目撃する。香帆はなんとかその場を立ち去り自室に戻る。呆然としてみると、浴室に忘れてきたスマホを届けに貴和子が現れる。佐越とのことは家にお金を入